

優秀賞

お母さんごうもありがとう

高知県 土佐市立新居小学校三年 明神 実果子

「ごはんは、なあに。」

これは、わたしが字を書けるようになって、お母さんにはじめて書いた手紙です。その手紙には、毎日ごはんを作っているお母さんに感しゃの気持ちを書いていました。わたしは、書いたこともすっかりわすれていた手紙だったのに、お母さんは大切に書いてくれました。しゆくだいの作文がいやになって、書けない時に、その手紙を見せてもらいました。

「この手紙はね、お母さんのたから物ながで。」
と、お母さんが言いました。わたしは、すねていたはずなのに、うれしくなっていてさい後まで作文を書くことができました。

わたしは、学校で友だちとケンカすると、学校からの帰り道はずっと早足になります。くやしくて、心がモヤモヤして、なみだがでそうになるからです。

家に帰ったら、すぐに自分の部屋に入って、シクシクないてしまいます。そして、それから後は、家族のだれに話しかけられても、いつもみたいに明るく返事ができません。

でも、夜になってお母さんが、
「ごはんできたよ。おりてきいや。」

と、ごはんができたのを知らせると、おなかですいていたつもりはないのに、おなかグーとなります。自分のせきについて、ごはんのにおいがはなの中に、ほわんと入ってくると、さっきまでしんどかった心が少しかるくなってきます。

そして、食べはじめると、エネルギーがたくさん入ってきて、ニコニコのえ顔になります。わたしは、学校のきゆう食も好きでよくおかわりもするけど、お母さんのごはんは元気をくれる気がします。お母さんの作るごはんは、おいしいだけでなく、あ

いじょうがいっぱいつまっているからかなと思いま
す。

家族のみんなもニコニコしていて、みんなが一日
がんばったことを聞いていると、いつの間にか楽し
くなっています。ごはんを食べ終わると、「明日、
友だちにちゃんとあやまって、なか直りしよう」と
いう気持ちにかわっています。お母さんは、わたし
の心を落ち着かせてくれるまほうを知っているみた
いです。

わたしは、いつでもお母さんの話をきちんと聞いて
いないし、お母さんが作るごはんも当たり前と思
っていました。でも、わたしにとって、とても大切
なものと感じました。これからは、お母さんにし
っかりと感しゃの気持ちをつたえられるようになり
たいです。

